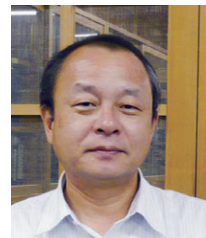


図書館情報学文献渉猟(下)

学術情報流通の変貌への対応

鶴見大学 長谷川 豊祐



1. 学術雑誌の変貌への対応

大学図書館における情報通信の技術環境が大きく変貌をはじめた頃に図書館員となった。その前年、職場には国会図書館の印刷カードの購入が開始されていた。4年後には、日本語ワードプロセッサの富士通オアシスが導入され、翌年には、パソコンと公衆回線によるオンライン情報検索サービスも導入された。パソコンと業務電算化が図書館に普及する黎明期であった。

大学図書館に勤務して最初に担当したのは、逐次刊行物の発注、受入、目録、製本、配架であった。逐次刊行物担当は、学術情報流通の全般を見渡せる仕事であったが、どの図書館業務からも情報流通や高等教育の全体を見渡すことは可能である。ただ、最初に就いた担当が、図書館業務の上流から下流まで、特に意識

しなくても見渡せる業務であったことは幸運であった。

大学図書館では、逐次刊行物に関わる資料費の割合が図書よりも多く、比較的小数の図書館員で業務が遂行されていた。一人で執行する資料費の金額も大きく、契約価格を書店と交渉する場面に備え、他校の換算レートの情報収集を行っていたものである。毎年秋の外国雑誌の契約更新は、緊張を強いられるものの館内の一大行事であり、他館との情報交換の機会でもあった。書店の営業担当と図書館員の両者が一緒に「学習」する格好の機会でもあった。電子ジャーナルが主流になった現在は、コンソーシアムという要素も加わり、規模的にも、内容的にも大きく変貌している。

目録業務や相互協力業務の基盤の雑誌総合目録に関しては、全国の大学の雑誌・所蔵データが簡単に利用できる環境

が整ったのは、インターネットや図書館業務の機械化以前であった。大学図書館における逐次刊行物に関わる業務やサービス自体が効率化・高度化され、多くの人員を要しない方向に進んでいた。また、1980年代は大学拡大の時期であり、技術的な進展の予算措置も保証され、大学図書館機能が拡大する中で仕事ができた。変貌への対応というより、むしろ変貌が図書館員を育てた時代であった。

現在では、受入、目録、製本、配架という業務の大半の部分は、電子雑誌の契約や、アクセス環境の整備に置き換わっている。しかし、紙から電子に媒体が変化しても、雑誌の機能自体は大きく変化していない。従って、過去に働きながら身につけた知識は現在でも有効である。情報媒体や情報技術が進歩して、図書館組織が変化しても、本と雑誌や、利用者サービスに関する知識自体が色あせることはない。

学術雑誌に関しては、関連図書が整備されている。70年代から現在まで、学術雑誌や学術情報流通の全体像は、変貌した背景や、業務やサービス改善、学術情報流通の最新動向を含めて、以下の図書

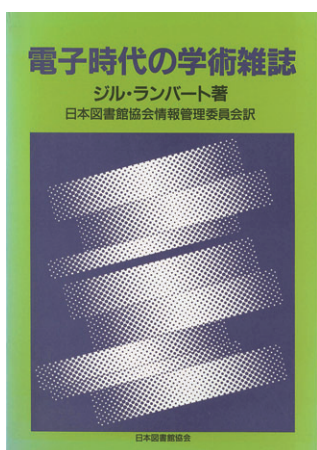
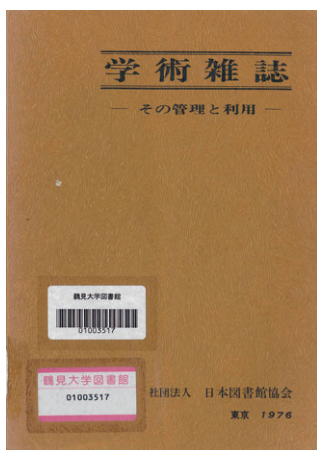
によって理解することができる。

- ・学術雑誌…その管理と利用 日本図書館協会 1976
- ・ジル・ランバート 電子時代の学術雑誌 日本図書館協会 1989
- ・土屋俊他 電子ジャーナルで図書館が変わる 丸善 2003
- ・倉田敬子 学術情報流通とオープンアクセス 勁草書房 2007

2. 大学図書館員の学びの現状

現在も、情報提供は図書館の使命である。しかし、資料を書架に並べておけば、もしくは、ホームページに情報資源へのリンクと利用ガイドを載せておけば、利用者が自動的に資料や情報資源を利用するという、単純なサービススタイルだけの大学図書館は、現在では皆無であろう。大学図書館における利用者サービスでは、軸足を資料や施設・設備などの物的支援に置きつつも、近年では、一歩踏み出した人的支援を提供している。

例えば、図書館活用ガイダンスの大規模な展開、インターネットを活用した積極的な情報発信、新しいメディアである電子ジャーナルの契約拡大、研究成果の発信システムである機関リポジトリの普及、学びを支援する仕組みとしてのラーニングコモンズなどである。大学図書館は、ICT技術を活用して、新しい人的支援サービスを積極的に展開している。人的支援とは、要するに、図書館設置母体の構成員(学生、教職員、地域住民)を対象とした学びの手助けである。



大学図書館の新たな使命は、教員への教育や研究活動の支援であり、事務職員の仕事遂行における、情報探索や情報発信の側面支援も考えられる。人的支援の拡大と、提供する媒体の多様化により、大学図書館の新たな使命は、大学図書館員への新たな学びを要求する。学術雑誌の変貌に比較しても、より広範囲に学ぶ機会が到来しているのである。

学ぶ機会の到来にもかかわらず、大学における問題として注目すべきは、学生が学ばなくなっている現状もさることながら、学びを支援するはずの図書館員が学ばなくなっている現状である。学ばなくなっているのではなく、何らかの障害があつて、学びたくとも学べなくなっている状況が存在する。

学びの支援をする側に学びのスキルがなければ、学びの支援は十分に果たせない。学ばない学生と、学べない図書館員では、大学の学びにおける負のスパイラルに陥ってしまう。更に、図書館や図書館員に対する社会的な期待が高まっている状況もあり、手を拱いていると、学びへの過大な期待が負のスパイラルを加速させる。大学図書館員全体を見渡せば、学びが重篤な状況に陥っている可能性もある。

3. 学びの障壁の整理

そこで、現状の打開には、学べない現状における「学びの障壁」を取り除くため、組織的かつ図書館業界をあげての工夫が必要になる。学びの障壁はいくつか

考えられる。学べない理由や学びの障害を整理することは、学びの制約条件を解決する方策を探るための第一歩となる。

(a) 情報の急増

機関リポジトリ、ラーニングコモンズ、メタデータ、ネットワークの構築、認証システム、電子ジャーナル、電子ブックなど、新しく学ばなければならぬ知識や新技術は多い。職場の業務において、どの技術が、どのように役立つのか、個人レベルで判断するのは難しく、学ばべき優先順位も悩ましい。

(b) 出版と所蔵の不足

情報は急増しても、そもそも、個別の知識や技術の内容を学ぶための解説書がない。新人の大学図書館職員向けには、基本的な大学図書館業務をセレクトして具体的に解説している解説書は出版されているものの、現在は、古書市場でも入手不可能となっている。

・大知っておきたい大学図書館の仕事
エルアイユー 2006

学術雑誌の最新事情では、前出の図書だけでは不十分である。業界情報を掲載する雑誌によって補う必要がある。(1) Against the Grain: Linking Publishers, Vendors and Librarians

(2) Information Today (3) Portal: Libraries and the Academy (4) Serials for the International Serials Community (5) The Serials Librarian (6) Serials Review は、国内所蔵が少ないか皆無で、入手困難なタイトルもある。

・加藤信哉 大学図書館における図書

館情報学分野の外国雑誌の所蔵状況について：予備的調査 名古屋大学附属図書館研究年報 2号 2003 p.1-13 <http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/bitstream/2237/11082/1/annals_02_01-14.pdf>

(c) 時間や投資の不足と職場対応の不備

情報が不足しているといっても、図書館情報学に関する新刊や雑誌論文を丹念に読むか、継続的に研修会などに参加すれば、知識や技術を習得することはできる。しかし、仕事量や新しいサービスが増加しても人員は増加せず、図書館職員は慢性的に多忙である。疲れた休日には学ぶ時間が捻出できなくなっているかもしれない。また、勤務先に図書館情報学関係の資料が豊富に揃っているか、積極的な職員研修を行っている職場でない限り、知識や技術習得のためには、個人的な投資が必要になってしまう。

学びは個人的な営みであるが、職場における組織的な学びを奨励する環境整備が必要である。学ばなければならない知識は増加する。業務の量的な増加と、質的な要求レベルの高まりも重なっている。一方で、コスト優先の管理強化により、学ぶことから中長期的に業務改善することよりも、短期的な成果が求められる。目の前の業務消化が奨励される。個人のモチベーションを上げる組織的な取り組みや、業界としての学びの環境整備は立ち遅れている。

(d) 意欲の低減

学んだ成果を実際の業務に反映させ

にくい職場環境では、学びのモチベーションが上がらない。この点が障害の根本原因ではないかと推測しているのだが、意欲の低下が一般的かというところでもない。仕事も学びも両立させたい潜在的欲求は全ての図書館員にある。研究者が研究し、その成果を学術雑誌に投稿する実態を生々しく描いた小説がある。面白く学べると新人や同僚にも好評である。引用論文目録(Science Citation Index) (p.62)、剽窃(p.53)、レフェリー(p.94-98)、最新論文要約(Current Contents) (p.131) などが楽しめる。

・カール・ジェラッシ カンター教授のジレンマ 文藝春秋 1994 (改題改訳として、ノーベル賞への後ろめたい道 講談社 2001)

4. 大学図書館員への学習支援

人材育成の実施と実施の方法は喫緊の課題であるが、時間も経費も費やさない方法として「文献渉猟」が現実的であろう。前号で紹介した『大学図書館の業務分析』で、大学図書館関係者による「プロバトール」に出場したが、惜しくも2位であった。今後も、機会を捉えて、大学図書館員への学習支援の一つの形式として、面白く役に立つ文献を探しだして紹介したい。

(図書館事務長、図書館員のためのインターネット編集管理人)
<http://members3.jcom.home.ne.jp/toyohiro/>